こんにちは、博洋エージェンシーサービスです

◆◇12 月の安全運転ポイント◇◆

12 月は忘年会や会食など、飲酒の機会が多くなります。
言うまでもありませんが、飲酒運転は絶対にしてはいけません！
飲んだら絶対に運転をしてはいけません！撲滅！飲酒運転！
アルコールが体から抜けるには、多くの時間を要します。
「ビール一杯・5時間」を分解目安として頭に入れておきましょう。

◆◇今月の安全運転ニュース◇◆

・緊急自動車への対応
・スピードメーターを見て、速度をチェックしていますか
・冬道走行の事故防止ポイント
・危険予知トレーニング

安全運転 ほっと NEWS

2025年12月号

今月のクイズ

令和6年中における救急出動件数のうち、正しいものを次の中から選んでください。

①約770万件　②約640万件
③約520万件

TOKIO MARINE NICHIDO

緊急自動車への対応

緊急自動車がより早く、より安全に現場に到着するためには、一般車両の協力が不可欠です。運転者一人ひとりの適切な判断と落ち着いた行動が、人命を救うことにつながっています。しかし、対応を誤ると救命活動に遅れが生じるだけでなく、新たな事故を生む可能性もあります。今月は緊急自動車が接近してきた際の正しい対応について、改めて確認してみましょう。

緊急自動車とは

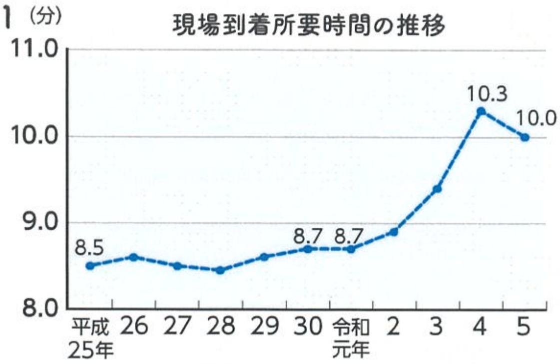
サイレンを鳴らし、赤色の警光灯をつけ、緊急用務のために走行しているものをいいます。サイレンを鳴らしていないときや、警光灯が青色の車両は緊急自動車に該当しません。多くの場合、急病・事故・火災等、人命にかかわるため、どれだけ早く現場に到着できるかが重要です。道路交通法では緊急自動車の優先通行権が認められており、一般車両はその進路を妨げてはならないと定められています。緊急自動車へ進路をゆずることはマナーではなく義務であり、違反をすると反則金や減点等の罰則の対象にもなります。

※道路交通法 第39条、第40条

一刻を争う救命の場

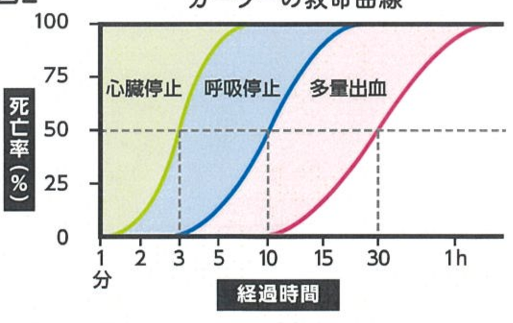
現場到着所要時間(119番通報を受けてから現場に到着するまでに要した時間)の平均は年々延伸傾向にあり、令和4年では約10.3分、令和5年では約10.0分と、2年連続で10分台を記録しています(図1)。これには様々な要因が影響していますが、その一因に交通渋滞や緊急自動車の走行への妨害があると考えられます。死亡率は心臓停止後約3分で50%、呼吸停止後約10分で50%、多量出血後約30分で50%に達するといわれており、時間の経過とともに死亡率が高まるため、1分、1秒でも早く救命処置を行うことが重要です(図2)。交通参加者が適切に行動することで、現場到着に要する時間を短縮し、多くの命を救うことができます。

図1　現場到着所要時間の推移



出典：消防庁 報道資料「令和6年版 救急・救助の現況」より弊社作成

図2　カーラーの救命曲線



出典：M.Cara: 1981.「カーラーの曲線」より弊社作成

緊急自動車が接近してきたときの対応

✕ 誤った対応

緊急自動車が接近してきたときに誤った対応をすると、緊急自動車のみならず、他の交通参加者に迷惑をかけたり、新たな事故を引き起こしたりするおそれがあります。

サイレンを無視して進路をゆずらない

⇨ 対応が遅れ、緊急自動車への通行妨害や他の車が避けるためのスペースをなくす可能性があります。

急ブレーキや急ハンドルで対応する

⇨ サイレンが聞こえたからといって急ブレーキで停止すると、追突される可能性があります。また、急ハンドルでの進路変更や周囲の状況を確認しないまま片側に寄ると、接触事故を起こしたり、かえって邪魔になったりすることもあります。

道路の中央や追い越し車線で停止する

⇨ 不適切な場所で停止すると、緊急自動車が通過できなくなったり、他の車が寄せられなくなったりする可能性があります。

緊急自動車通過後、すぐに発進する

⇨ 本来の走行位置とは異なる場所に停止しているため、安全確認しないまま発進すると他の交通参加者と接触する可能性があります。また、緊急自動車は1台だけでなく、複数台が連続して走行している場合もあります。

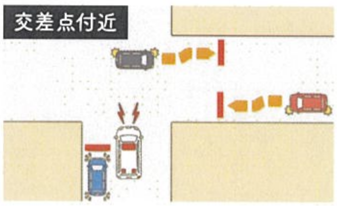
◎ 正しい対応

近年の車は防音性能が高いことに加え、大きな音で音楽を流していたりエアコンを使用していたりすると、サイレンが聞こえにくいことがあります。なるべく音量は抑えるようにし、少しでもサイレンの音が聞こえたり赤色灯が見えたりしたときは、窓を開ける、音量を下げるなどして、周囲の状況に注意を向けましょう。緊急自動車のサイレンが聞こえたら、まずはどの方向から来ているのか、目視やミラーを活用して確認します。進路をゆずる場合は、無理な動きをして事故を起こすことのないように、落ち着いて行動することが大切です。周囲の状況を確認してから合図を出し、再度確認をした上で減速や停止、進路変更を行います。一時停止中は周囲の車や緊急自動車に伝わるよう、ハザードを付けておくと良いでしょう。

確認 ➡ **合図** ➡ **再確認** ➡ **行動**

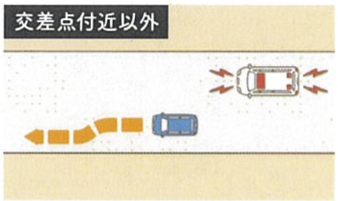
交差点付近を走行中に緊急自動車が近づいてきたとき

交差点を避け、道路の左側に寄って一時停止し、進路をゆずります。既に交差点内に入っていた場合は、できる限り交差点から出て左側に寄ります。



交差点付近以外を走行中に緊急自動車が近づいてきたとき

基本は道路の左側に寄って、緊急自動車の進路を確保します。一方通行の道路等、左側に寄ることで緊急自動車の走行の邪魔になる場合には右側に寄ります。この時に一時停止の義務はありませんが、緊急自動車を先行させるため、状況に合わせた対応をとりましょう。



高速道路では…

緊急自動車は追越車線を通行することもあれば、路肩を通行することもあります。また、渋滞中には車線と車線の間を通行することもあります。一般道路とは異なり、後方からのみ接近してくるので、ミラーで緊急自動車の動きや距離を把握し、周囲の車の動きを見ながら適切な位置に移動しましょう。救急隊員の誘導・指示がある際は、必ず従いましょう。

緊急自動車を迅速・安全に現場到着させるために

消防庁の統計によると、令和6年の全国の救急出動件数は過去最多を更新しました※1。救命の現場では1分、1秒の遅れが生死を左右します。緊急自動車を迅速かつ安全に到着させるために、道路を共用する運転者一人ひとりが担う責任を自覚し、日頃から正しい対応の仕方をイメージするなど、いざというときのために備えておきましょう。

※1 消防庁 報道資料「令和6年中の救急出動件数等(速報値)」より

★サイレンが聞こえたら、緊急自動車の方向と周囲の状況を確認しましょう

★緊急自動車が近づいてきたら、落ち着いて進路をゆずりましょう

★日頃から正しい対応の仕方をイメージしておきましょう

今月のクイズの答え ①約770万件 771万7,123件と報告されています。 出典:消防庁 報道資料「令和6年中の救急出動件数等(速報値)」より

ご用命・ご相談は･･･

〒174-0043 東京都板橋区坂下3-37-8
㈱博洋エージェンシーサービス
TEL03-3967-2792 FAX03-3967-2977

TOKIO MARINE NICHIDO 東京海上日動
URL www.tokiomarine-nichido.co.jp
担当営業課

© 2025 東京海上日動火災保険株式会社

インターリスクニュース

〈人〉 車 道路

12月の安全運転のポイント

2025年12月号

安全な運転を継続していくためには、自分の運転を振り返り、交通ルールを守っているか、安全運転の基本を実践しているかなどをチェックすることが大切です。そこで今回は自分の運転を振り返り、今後の安全運転をより一層推進するためのステップとなるチェックポイントを挙げました。

Check 1 こまめにスピードメーターを見て、速度をチェックしていますか？

規制速度を守り、天候や道路状況に応じた速度で走行することは、安全運転の基本中の基本です。速度の判断を感覚に頼らず、きちんとスピードメーターを見てチェックしましょう。特に夜間や高速道路の走行時は速度感覚が鈍り、速度超過になりやすいため、より一層こまめにスピードメーターで速度のチェックを行いましょう。

Check 2 自分だけでなく同乗者にも必ずシートベルトを着用させていますか？

シートベルトは、交通事故が発生した場合の乗員の被害を大幅に軽減するとともに、正しい運転姿勢を保つことで疲労を軽減するなど、さまざまな効果があります。シートベルトを備えている自動車を運転するときは、運転者自身がシートベルトを着用するだけでなく、助手席や後部座席の同乗者にも着用させなければなりません（エアバッグが搭載されている自動車の場合も同様です）。

また、シートベルトは正しく着用しないと十分な効果が得られないため、乗員全員が正しく着用しているか確認することが大切です。

Check 3 少しでも酒気を帯びていたら運転しないことを徹底していますか？

飲酒運転は危険で悪質な犯罪行為であり、いかなる理由があろうと許されるものではありません。一滴でもお酒を飲んだときは車を運転してはなりません。特に年末年始は普段に比べてお酒を飲む機会が増えるため、自分が飲酒運転をしないというだけでなく、周囲に飲酒運転をするおそれのある人がいるときは必ず制止する、車で訪問してきた人には酒類を提供しないことも徹底する必要があります。

Check 4　短時間の駐車時でも、エンジンを切り駐車ブレーキをかけていますか？

環境省の「エコドライブ10のすすめ」によれば、10分間のアイドリング（エアコンＯＦＦの場合）で、130cc程度の燃料を消費するため、短時間の駐車の場合でも、エンジンを切りましょう。

また、自然発車による事故（運転者の運転行為以外の原因で車両が動き出すことによって発生した交通事故）を防止するために、車から離れるときは必ず駐車ブレーキをかけましょう。

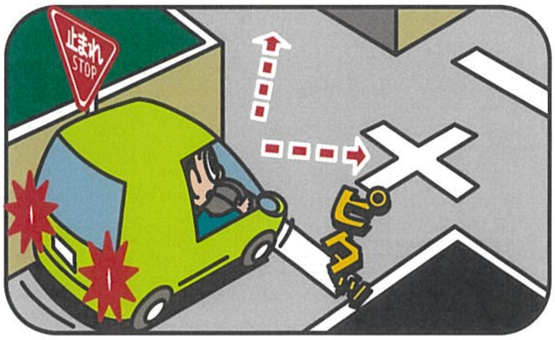
Check 5　薄暮時には、早めにヘッドライトを点灯していますか？

薄暮時とは、日没時刻の前後１時間を指します。薄暮時は、暗くなっていく速度に目の順応が追いつかず、視力がかなり低下した状態になるといわれています。そのため、ヘッドライトを点灯していない車は、自車の視界が十分に確保できないだけでなく、周囲の車や歩行者、自転車からも見落とされやすくなります。早めにヘッドライトを点灯して周囲から見落とされないようにしましょう。

Check 6　一時停止の義務がある場所では、確実に停止していますか？

毎年、車両相互の死亡事故で最も多いのは「出会い頭衝突」です。そのなかには見通しの悪い場所での一時停止不履行による事故がかなり含まれていると考えられるため、一時停止が義務づけられている場所では、確実に停止して左右の安全確認をしましょう。

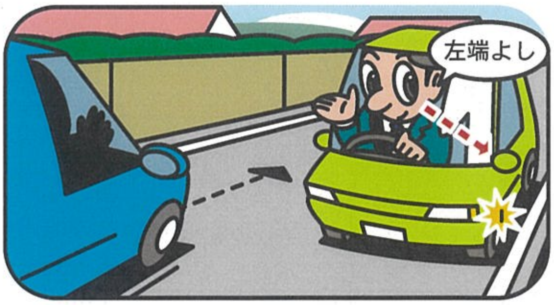
また、一時停止が義務づけられていない場所でも、信号機のない左右の見通しの悪い交差点では、徐行が義務づけられているため、その点も忘れないようにしましょう。



Check 7　狭い道路で対向車とすれ違うときは、相手に道を譲っていますか？

狭い道路で対向車と接近し、そのまま進行すると接触するおそれがあるときは、相手のほうが止まるだろうとは考えず、自分のほうから左に寄って停止し相手を先に行かせるようにしましょう。

ただし、左に寄るときには道路端に置かれた看板や工作物などに接触しないか、後方から自転車や歩行者が接近していないかなどをよく確認しましょう。



「お問い合わせ先」

株式会社 博洋エージェンシーサービス

〒174-0043　東京都板橋区坂下3-37-8

TEL(03)3967-2792　FAX(03)3967-2977

※イラストの二次利用はご遠慮願います

〔制作〕ＭＳ＆ＡＤインターリスク総研株式会社　リスクマネジメント第二部　交通安全サポートグループ

共栄火災海上保険

自動車防災情報

商品開発部 自動車業務グループ
No．2209
2025年11月12日

冬道走行の事故防止ポイント

これから日本全国で雪の降る季節になります。大雪による交通網マヒのニュースが年々増えています。今の時期から準備を怠らず、トラブルを回避できるようにしておくことが大切です。

■高速道路走行時の注意点

●降雪時、車体が白系の車は背景と同化し、さほど離れていなくても認識しづらくなります。前方にこのような車両が走行している場合、速度差が大きいほど、発見してからの回避行動が間に合わず衝突する危険が高くなります。降雪量が多い日や視界が悪い日は、速度を十分落とし、前方をしっかり確認することが必要になります。

●冬場の運転では、フロントガラスの曇りによる視界の悪化に注意する必要があります。除湿等の機能を活用したり、出発前に曇り止めスプレーを使用して対策を行うことが大切です。

■カーブ走行時の注意点

●ある県で発生したスリップ事故を調査した統計から、時間帯別をみると、午前８時から午前１０時までが最も多く発生していることがわかりました。これは、路面の雪が朝の冷えで凍結して、そこへ先を急ぐ車がスリップするケースが多いと考えられます。

●雪道のカーブでスリップしないためには、カーブ走行の基本であるスローインを実践することです。カーブの手前でエンジンブレーキを併用して十分減速し、カーブ内はその速度を維持します。直進に出ればゆっくり加速しましょう。

■前車に追従する場面での注意点

●前車が屋根に雪を積んでいる時は、雪が落下して前方の視界が突然遮られたり、路面の雪がまき散らされたりすることがあります。その際に急ハンドル、急ブレーキ操作を行うことはスリップにつながります。前車との距離を通常より広くとり、決して脇見をしないことが必要です。

●車に積もった雪を落とさずに走行すると、雪が落下した場合、後続車や歩行者等の迷惑となるだけでなく、自車のフロントガラスに雪が落ち、前方の視界を遮るおそれがあります。車の屋根やガラスに付着した雪は、出発前に確実に落としておきましょう。

出典：月刊自動車管理

共栄火災海上保険

自動車防災情報

商品開発部
自動車業務グループ

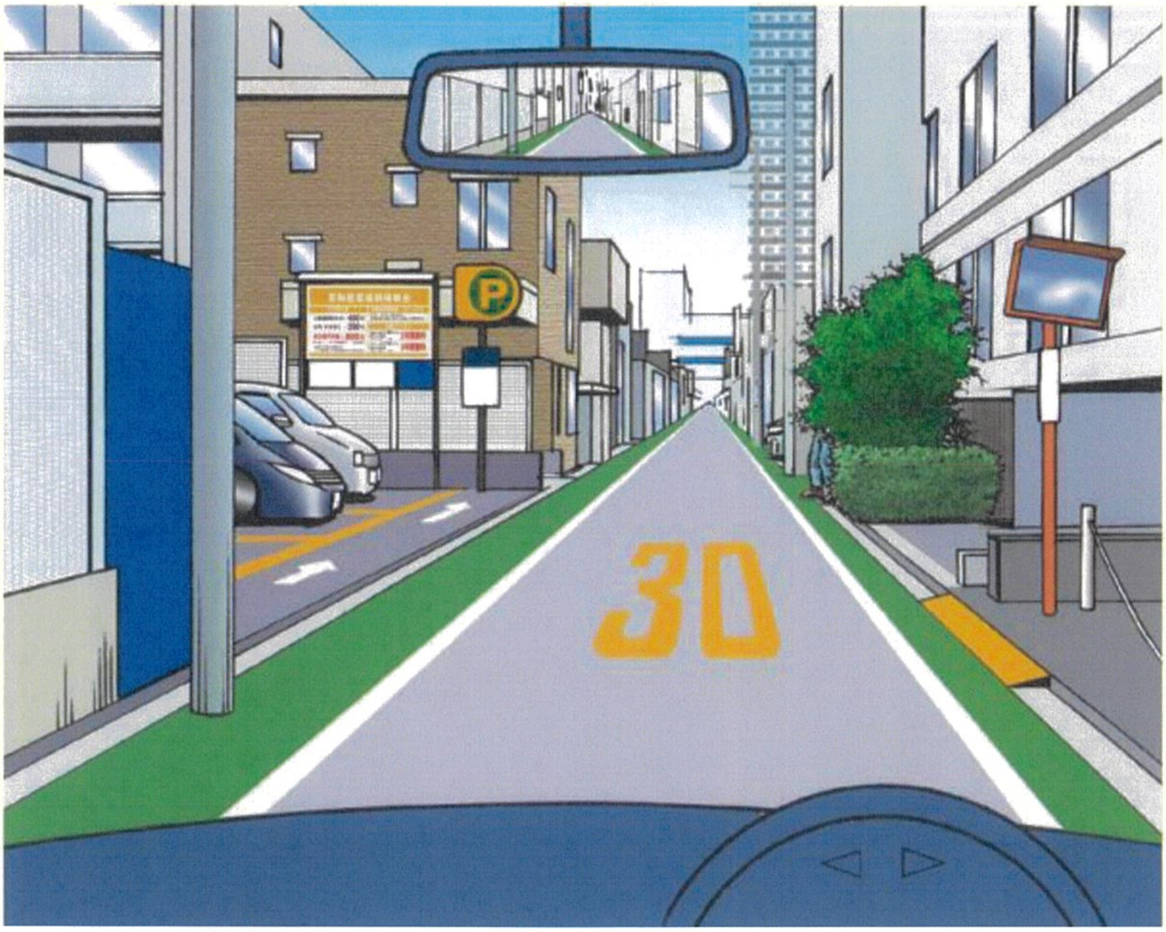
No．2210

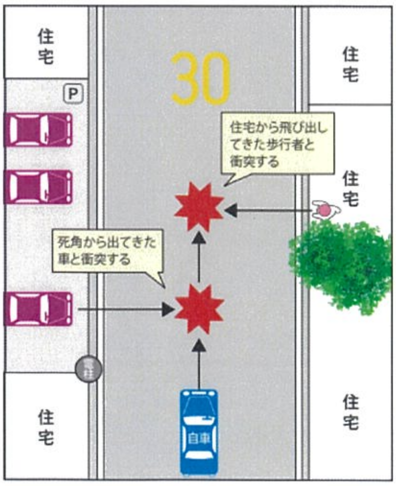
2025年11月26日

危険予知トレーニング

平日の午前中、一方通行の生活道路を走行しています。前方には駐車場が見えます。自車はこのまま進んで行きたいのですが・・・。

★このような場面にひそむ危険要因を挙げ、この場面での安全な運転方法について考えてみましょう。





【模範解答】

① 死角から出てきた車と衝突する

- 駐車場の手前にある電柱が死角をつくっています。漫然と走行していると死角から出てきた車と衝突するおそれがあります。
- 死角がある場所では、相手も自車のことが見えていないと考えて慎重に運転しましょう。

② 住宅から飛び出してきた歩行者と衝突する

- 生活道路は車の通行量か少なく、また速度も遅いことから歩行者が安易に道路に飛び出してくることがあります。
- 一方通行の道路では対向車が来ないことから油断しがちです。いかなる状況でも安全確認と危険予測を絶やさないようにして下さい。

出典：月刊自動車管理